

-----  
実施課題名：農外企業参入における成立条件と支援方策の解明

⑦参入実績別にみた農業への企業参入に関する市町村担当者の意識特性

担当部署名：島根県農技セ・総務企画部

担当者名：山本善久・竹山孝治

協力分担：県庁農業経営課

予算(期間)：県単（2007～2012年度）  
-----

## 1. 目的

農業の担い手不足や農業産出額が低迷するなかで、地域農業の新たな担い手として農業への企業参入が期待されている。本課題では、農外参入企業の経営の発展過程や地域における経済効果、異業種連携・アグリビジネスへの発展の可能性を探り、企業参入の成立条件と支援策を明らかにする。

本報告では、アンケート調査により参入実績別にみた農業への企業参入に関する市町村担当者の意識特性や意識差異について明らかにした。

## 2. 方法

評価項目及び評価方法を表1に示した。調査は島根県の全市町村（21市町村）担当者各1名を対象とした。調査期間は2006年9月～11月である（以下、評価項目名は短縮して記載しているので詳細は表1参照のこと）。

## 3. 結果の概要

(1) 企業の農業参入に期待する効果を参入実績の有無別に整理すると次のとおりである。実績あり（A）は、「高収益アグリビジネスへの発展」「加工・直売等の多様な経営展開」「施設園芸の担い手」など企業的経営の推進や地域農業の中核的役割へ期待し、実績なし（B）は、「畜産・和牛・飼料作物の担い手」「畑地・樹園地の耕作放棄地防止」など地域農業構造の負の部分解消効果へ期待している（表2）。

(2) 同じく企業の農業参入に関する不安・懸念事項では、実績あり（A）が、「優良農地の確保が困難」「まとまった農地の確保が困難」「黒字転換まで数年かかる」など生産の基盤となる農地確保及び参入初期の経済性に不安を抱いている。一方、実績なし（B）は、「既存農家やJA事業との競合・乖離」「目標が高すぎる」「自然災害・価格暴落のリスク」など地域農業との関係及び農業の現状認識の甘さに不安を抱いている（表2）。

(3) 各市町村担当者の意識（評価）の差異は、「加工・直売等の多様な経営展開」「高収益アグリビジネスへの発展」「施設園芸の担い手」「まとまった農地の確保が困難」「優良農地の確保が困難」「黒字転換まで数年かかる」の6項目で両者間に差がみられ（t検定5%水準で有意差あり）、いずれも実績あり（A）の市町村担当者の評価点が高い。また、統計的な有意差は確認できないまでも、「既存農家やJA事業との競合・乖離」をはじめとした地域農業との関係への不安感という点で、実績なし（B）の市町村担当者が強く不安を抱く傾向にある。

## 4. 結果の要約

参入実績のない市町村担当者は、地域農業構造の負の部分（耕作放棄地など）解消への期待や地域農業との関係に不安を抱き、一方、参入実績のある市町村担当者は、地域農業の中核的役割へ期待し参入初期の経済性及び生産の基盤となる農地確保に不安を抱いている。

[キーワード] 農外企業参入、市町村担当者、意識特性

表1 農業への企業参入に期待する効果及び不安・懸念事項に関する評価項目

区 分		評 価 項 目
期待する効果の評価	地域農業の維持・再編	1 水田の耕作放棄地防止
		2 畑地・樹園地の耕作放棄地防止
	農業生産の新たな担い手	3 農産物の加工・直売・観光農園等の多様な経営展開の実践
		4 地域農産物の企画販売や高収益アグリビジネスへの発展・展開
		5 水稲栽培や農作業受託の担い手
地域雇用の創出	6 施設園芸の担い手	
	7 畜産の担い手	
	8 特用林産物(キノコ・ワサビ)や健康食品原料生産の担い手	
不安・懸念事項の評価	栽培技術・技術習得	9 企業従業員や定年退職者等の雇用の受け皿
		10 U・Iターナー者・若者・女性の新たな就業先の創出・確保
	経営の安定・継続性	11 栽培技術や作目、品種選定に不安がある
		12 技術習得における指導、支援体制が整っていない
		13 販売に対する意識が低く、販路の確保に不安がある
	地域農業・農家との関係	14 まとまった農地の確保が困難
		15 優良農地の確保が困難
		16 生産性が低く、黒字転換まで数年かかる
		17 目標が高すぎる(理想とのギャップや現状認識の甘さ)
		18 自然災害、価格暴落のリスク
19 産業廃棄物処理(堆肥散布)や資材置き場等の農地の不正利用への不安		
20 行政のチェック機能が未整備		
21 水路、農道等の維持管理への出役問題		
22 地域への環境配慮(悪臭、汚水、騒音)		
23 既存農家とJAとの関係		
24 既存農家との販路の競合やJA事業との乖離が生じないか不安		

注:1)期待する効果、不安・懸念事項それぞれ、[期待していない:1~かなり期待:5] [そう思わない:1~そう思う:5]の1~5の5段階評価を求め、それぞれを評価点とした。

表2 参入実績別にみた農業への企業参入に関する市町村担当者の評価と意識の差異

	農業への企業参入実績							
	実績あり(A) n=15			実績なし(B) n=6			評価差 t 検定	
	平均評価	標準偏差	順位	平均評価	標準偏差	順位		
期待する効果の評価	1 水田の耕作放棄地防止	3.13	0.99	6	3.00	1.67	3	0.13
	2 畑地・樹園地の耕作放棄地防止	3.40	1.12	5	3.17	1.47	2	0.23
	3 加工・直売等の多様な経営展開	3.80	0.86	2	2.50	0.84	6	1.30**
	4 高収益アグリビジネスへの発展	3.87	0.83	1	2.67	1.03	5	1.20*
	5 水稲栽培の担い手	3.07	1.10	7	2.50	1.05	6	0.57
	6 施設園芸の担い手	3.80	0.68	2	2.83	1.17	4	0.97*
	7 畜産・和牛・飼料作物の担い手	2.60	1.12	8	3.33	1.37	1	(0.73)
	8 特用林産物の担い手	3.60	0.74	4	2.83	1.17	4	0.77
	9 企業従業員等の雇用の受け皿	3.67	0.82	3	2.83	1.17	4	0.83
	10 UIターナー者等の就業先の確保	3.60	0.83	4	3.00	1.55	3	0.60
不安・懸念事項の評価	11 栽培技術や品種選定に不安	3.47	0.99	3	2.67	1.03	3	0.80
	12 指導・支援体制が整っていない	3.47	0.83	3	2.67	1.37	3	0.80
	13 販路の確保に不安	2.80	1.08	7	2.83	1.17	2	(0.03)
	14 まとまった農地の確保が困難	3.93	0.88	2	2.83	1.33	2	1.10*
	15 優良農地の確保が困難	4.00	0.85	1	2.67	1.21	3	1.33**
	16 黒字転換まで数年かかる	3.93	1.03	2	2.83	0.75	2	1.10*
	17 目標が高すぎる	3.33	1.11	4	3.00	0.63	1	0.33
	18 自然災害・価格暴落のリスク	3.33	1.05	4	3.00	0.63	1	0.33
	19 農地の不正利用への不安	2.87	1.25	6	2.50	1.38	4	0.37
	20 行政のチェック機能	2.73	1.22	8	2.67	1.21	3	0.07
	21 水路・農道等への出役問題	3.07	1.22	5	2.83	1.17	2	0.23
	22 地域への環境配慮	2.87	1.25	6	2.33	0.82	5	0.53
	23 既存農家やJA事業との乖離	2.73	1.28	8	3.00	1.55	1	(0.27)

注:1)順位において□で囲んだ項目は、「期待する項目」「不安・懸念項目」の各項目において、平均評価点の高かった上位2位までを示している。

注:2)評価の差は、A-Bより算出した値であり、( )はマイナスの値を示す。また、評価得点差が1点以上ある項目は□で囲んでいる。

注:3) t 検定の結果、\*\*は1%水準、\*は5%水準で有意差あり。

注:4)参入実績は、アンケート調査実施時期の実績を用いた(2006年9月現在)。

5. 今後の問題点と次年度以降の計画

参入企業や地域農家の意識特性についても明らかにし、比較分析を行う。

6. 結果の発表、活用等

(1) 平成19年度近畿中国四国農研成果情報へ投稿。その他でも公表する予定。

(2) 参入概況及び参入実態については、山本善久(2006)農業経営通信 229:2-5、山本善久(2007)島根県農業技術センター研究報告 37:41-50、山本善久(2007)近畿中国四国農研農業経営研究 17:35-44を参照されたい。